

あけましておめでとございます。今年も皆様にとって良い年でありますように。

長引く不況、新たな金融危機の兆し、そして異常なまでの円高に直面した12月でした。日本の新聞は毎日のように暗い話題を扱っていました。一見明るいニュースがないのかなと思うほどの毎日でした。そんな中で迎えた新年。今年はどうなるのだろうかと不安な気持ちになってきますが、そんなときこそ元気出して行きませんか？元気が湧き出てきそうな心の温まるお話を。

A君は年少さんから入園した、少し小柄な男の子でした。お弁当の時間前の手洗いでは、どうしても水道の蛇口に手が届かず、入園後半年ほどは必ず年長さんの誰かに手助けしてもらっていました。そして3学期の終わり頃、いつも手助けしてくれていた年長さんたちが卒園式を控えたある日、彼はそっと渡しの教えてくれました。「あのね、先生。僕、年中さんになったら年少さんの手洗いを御手伝いしてあげるんだ。僕はもう蛇口に手が届くようになったけど、小さい年少さんは難しいだろうからね」。そして4月、小さい年少さんが入園してきたとき、A君は張り切ってお手伝いをしていていました。「御手伝いありがとうね、A君」といいながら成長した彼を逞しく思いました。

B君は年中さんの時、弟が生まれました。お母さんのお腹が大きくなり始めた頃からご家庭で「新しい家族が増えるんだよ。うれしいね。」と話をされていたそうです。そして無事に弟が生まれ、B君は妹と弟のいるお兄ちゃんになりました。ある日のこと、なにやら折り紙を熱心に行っているB君が、全部の作品を5つずつ作っていることに気が付きました「どうして5つずつ作るの？」とたずねた私にB君は「家族が5人になったからだよ。僕は5人家族なんだ。新しい弟が生まれて5人になったんだよ」ととても嬉しそうに話をしてくれました。

Cちゃんはお世話の大好きな年長さんでした。いつも年少さんや年中さんの女の子の面倒を見ていていました。そしてある日、お庭で鬼ごっこをやっていたとき、年少の女の子が転んでしまいました。Cちゃんは鬼から逃げるのに一生懸命でしたが、女の子が転んでいるのをみて、すぐに近づき、抱き起こして服に付いた土は払い始めました。すると鬼になっていた年長さんのDちゃんが近づいて行きました。私はてっきりCちゃんにタッチをするために近づいたのだと思ったのですが、DちゃんはCちゃんにタッチせず、同じように転んだ女の子の土は払い始めたのです。そして優しく「大丈夫だよ、どこか痛いところある？」と声をかけてくれました。泣くのを我慢した女の子が再び走り出すと、Cちゃんと顔を見合わせたDちゃんはとても楽しそうに笑い、「10数えるからその間に逃げてね」とCちゃんに言いました。Cちゃんはまた顔を真っ赤にして全力で走って行きました。

年長さんたちがお気に入りのお庭遊びに「陣取り」があります。攻撃側と防御側に別れ、防御側が守る宝物にタッチすれば得点とされます。しかし安全地帯を離れた攻撃側の子が防御側の子にタッチされると、最初からやり直しになるゲームです。ある時、年中さんが防御側になり、年長さんが攻撃側になり形でゲームを始めました。年中さんだけでは簡単に得点されるので、私が防御側に入り、宝を守りました。年中さんたちにポジションの指示を出し、そしてどのように攻撃を防ぐのかを簡単に説明をして、ゲームが始まりました。年長さんたちは口々に「先生が入るのはずい」などと言っていました。E君とF君がみんなを集め、なにやら話し始めました。聞き耳を立ててみると「前に先生が教えてくれた攻撃のやり方を使ってみようよ。君は左側、君は右側、そして君は二列目」などと作戦を立て始めたのです。そしていよいよゲームが始まったのですが、タッチされるのが怖くて年長さんたちは中々攻撃をしようとしません。するとG君が「よし、僕が一番に行くから、後に付いてきて」と言って、防御陣に突入して行ったのです。それが口切となり、年長さんたちは作戦通りに何度も宝物にタッチし、得点を重ねて行きました。普段はおとなしいG君ですが、この勇気ある行動を見て、周りのお友達から一目置かれるようになったのは言うまでもありません。

ある日、名前の書かれていないハンカチが教室に落ちていました。「これ誰のかな？」と訊いても誰も手を上げません。すると数人の年長さんの女の子達が近づき、そのハンカチを手にして図柄を見始めましたそれでも誰のかは判りません。いつもお友達と抱き合って転げあって遊ぶのが大好きなI君がハンカチを手にして、なんと臭いを書き始めたのです。そして暫く臭いをかいでから「これはYちゃんのだよ」と言いました。名指しされたYちゃんがポケットの中を調べると、そこにハンカチはなく、いつの間にか教室に落としていたのが判りました。なぜ臭いで判ったのかとても不思議になり、I君に尋ねると「いつも抱っこしたりして遊んでるでしょ。だから誰のお洋服はどんな臭いかって覚えているの」と答えてくれました。その不思議な才能に驚いた思い出があります。

子供達の世界には子供達しか分からない世界があります。そして幼稚園ではみんなそれぞれに突っ張って生活をしています。そんな子供達にもストレスがあり、軋轢があり、そしてみ合いがあります。でもそんな園生活を送ることで人間同士を良く知るようになります。上に書いた逸話は、園生活のほんの一部です。毎日子供達は笑い、喜び、怒り、そして悲しみを感じて成長を続けています。そしてそれが彼らの将来にきっと役立つだろうと信じています。

《 つづく 》